

タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT2601		
科目名	危機管理基礎演習 I		
担当教員	福田 充		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	火 3		
講義室	1304	単位区分	必
授業形態	演習	単位数	1
科目大分類	専門		
科目中分類	専門基幹		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E[学識・専門技能] 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP2-B[自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢] 自己の存在意義を知り、自らを高め続けようとする努力することができる。 DP3-H[論理的思考力・批判的思考力] 理路整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。 DP4-F[探究力・課題解決力] 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問 DP4-I[理解力・分析力] 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 DP6-K[表現力・対話力] 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 DP7-C[他者理解・倫理観・公共心] 人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。 DP8-M[省察力] 知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 B1 自己啓発－10% C1 倫理的思考・社会認識－10% E1 学識と専門技能－20% F1 探求と論拠－10% H1 論理的思考－20% I1 理解・分析と読解－10% K1 ライティング・コミュニケーション－10% M1 統合的・応用的学修－10%		
教員の実務経験	2005年から内閣府内閣官房の「日本のテロ対策の在り方について委員会」などの委員として日本のテロ対策やミサイルなど国民保護体制の構築に関する実務に関与してきました。また2007年から埼玉県「危機・防災懇話会」委員として自治体行政における災害対策やテロ対策の構築のための実務に関わりました。その他にも政府や官庁、自治体の災害対策、テロ対策、国民保護などに関する委員会委員を歴任して、日本の危機管理体制の構築に関わってきました。現在も総務省消防庁ではテロ対策など国民保護についての懇話会で、厚生労働省では新型インフルエンザ委のパンデミックについての有識者会議や委員会、神奈川県国民保護情報ネットワークでは研究者メンバーとして、行政や自治体、ならびに企業など多様なステークホルダーと連携しながら日本の危機管理体制の構築に関わっています。こうした実務経験をもとに、講義を行います。（第1回～第15回）		

成績ターゲット区分	■能力開発の目標ステージとの対応 2 進期期 ～ 3 発展期
科目概要・キーワード	危機管理の研究領域の中から、学生個人がそれぞれ1つの研究テーマを構築するのに必要なスキルと知識を統合的に学ぶために、危機管理に関する基礎的な演習を行います。危機管理学の専門基幹科目における法学系科目、又は、専門展開科目における災害マネジメント、パブリックセキュリティ、グローバルセキュリティ若しくは情報セキュリティに属する危機管理系科目を担当する教員が「個別クラス」を担当し、教員の研究領域の特性に即して研究手法等を指導します。3年次以降のゼミナールにおける、より専門的な研究活動への橋渡しの意味をもちます。本科目では、研究のテーマ決定や研究計画の検討からはじめて、研究を進め、その成果をプレゼンテーションによって表現することまでを行います。 授業形態は演習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 (キーワード) 危機管理、研究テーマの構築、ゼミナールへの橋渡し
授業の趣旨	■副題 オールハザード・アプローチによるリスクコミュニケーションの研究 ■授業の目的 この「危機管理基礎演習Ⅰ」では、3年次からのゼミナールや危機管理特殊研究にむけて、卒業論文や卒業研究を行うために必要な個人研究のテーマや研究方法など、研究計画を確立することを目標とします。 ■授業のポイント 危機管理に関する研究テーマの探求、研究手法の会得、研究成果の発表の各過程を通じて、①探求力・課題解決力、②学識・専門技能、③論理的思考力・批判的思考力、④理解力・分析力、⑤表現力・対話力の各コンピテンスの開発を行うことを目的とします。将来のキャリアを見据えた学びにおいて、⑥自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢、⑦倫理観と公共心、⑧省察力の各観点について自覚を持つことも望まれます。
総合到達目標	旺盛な関心をもって危機管理学及びそれを支える諸科学における重要問題を探求し、これを科学的な手法によって分析し、又は論理的に解釈して知見を見出すとともに、その成果を適切に表現することができる。 ・危機管理に関する専門分野の理論知と実践知を獲得し利用することができる。 ・危機管理における自己の社会的責任を知り、自らを高めようと努力することができる。 ・危機管理に関連する論理的思考を備え、内省的思考により、課題を合理的に解決することができる。 ・危機管理に関わる課題を設定し、それに対する結論を合理的に導き、論拠の収集と分析を体系的に行うことができる。 ・文章、数値データを適切に扱い、情報収集、分析と加工を行い、課題解決につなげることができる。 ・文章及び口頭で、自分の考えを的確に表現し、他者に伝達することができる。 ・人間行動に適切性に関する推論に取り組み、社会的存在としての自己の行動原理を獲得することができる。 ・知識と経験とを関連付け学修成果を活用できる能力を獲得し、新しく複雑な状況に活用して課題解決につなげることができる。
成績評価方法	■授業内で発表する研究プレゼンテーション発表用のパワーポイント 4回（80%）：適用ルーブリック B1・C1・E1・F1・H1・I1・K1・M1 第1回目：研究テーマと問題意識（20%） 第2回目：研究対象の説明（20%） 第3回目：先行研究の収集とまとめ（20%） 第4回目：研究方法と仮説（20%） (評価の観点) それぞれ2週間かけて作成するプレゼンテーション用パワーポイントを、演習時に各自が発表し、その研究の内容と研究計画の立て方の厳密さ、的確さと、プレゼンテーションの手法のレベルを評価します。 (フィードバックの方法) 各自のプレゼンテーション発表後に、授業内で評価・議論を行います。 ■期末試験レポート 1回（20%）：適用ルーブリック B1・C1・E1・F1・H1・I1・K1・M1 4回発表したプレゼンテーション用パワーポイントを1つのファイルにまとめ、研究計画パワーポイントを作成して、期限内に提出します。 (評価の観点) 危機管理学に関する研究計画としての独創性、妥当性、適格性について評価します。 (フィードバックの方法) 授業内で事例紹介と解説・評価を行います。

履修条件	ありません。	
履修上の注意点	危機管理に興味関心を持ち、予習・復習を欠かさない学習態度をもって、授業に望んでほしいと思います。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 危機管理基礎演習Ⅰの演習の内容と演習の進め方を説明します。この危機管理基礎演習Ⅰにおいては、担当教員のこれまでの実務経験を活かしながら研究指導を行います。こうした社会での実務と研究活動がどのように関連してくるかを説明します。担当教員の実務経験に基づいた演習を実施します。(B1・C1・E1・G1) ③予習(120分) 教科書の『リスクコミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』(北樹出版)の序章を読む。 ④復習(120分) 自分自身の卒業論文、卒業研究の研究テーマについて資料を収集し、検討する。
	2	①授業テーマ： 危機管理学における研究テーマの設定と問題意識 ②授業概要 危機管理学において求められる研究テーマの立て方と、問題意識のあり方について講義し、どのように個人研究を始めて、どのような作業を進めればよいかを説明します。担当教員の実務経験に基づいた演習を実施します。(B1・C1・E1・G1・I1・K1・L1・M1) ③予習(120分) 教科書の『リスクコミュニケーションとメディア』の第1章を読む。問題意識の立て方について考える。 ④復習(120分) 自分自身の卒業論文・卒業研究のための個人研究計画について考察し、研究テーマと問題意識についてのプレゼンテーション用パワーポイントを作成する。
	3	①授業テーマ： 第1回発表①「研究テーマと問題意識」 ②授業概要 自分自身の個人研究計画における「研究テーマと問題意識」について、受講生がひとりずつパワーポイントをもとにプレゼンテーションし、受講生全員でディスカッションを行います。担当教員の実務経験に基づいた演習を実施します。(B1・C1・E1・G1・I1・K1・L1・M1) ③予習(120分) 教科書の『リスクコミュニケーションとメディア』の第2章を読む。問題意識の立て方と先行研究について考える。 ④復習(120分) 自分自身の卒業論文・卒業研究のための個人研究計画について考察し、研究テーマと問題意識についてのプレゼンテーション用パワーポイントを作成する。
	4	①授業テーマ： 第1回発表②「研究テーマと問題意識」 ②授業概要 自分自身の個人研究計画における「研究テーマと問題意識」について、受講生がひとりずつパワーポイントをもとにプレゼンテーションし、受講生全員でディスカッションを行います。担当教員の実務経験に基づいた演習を実施します。(B1・C1・E1・G1・I1・K1・L1・M1) ③予習(120分) 教科書の『リスクコミュニケーションとメディア』の第3章を読む。問題意識の立て方と先行研究について考える。 ④復習(120分) 自分自身の卒業論文・卒業研究のための個人研究計画について考察し、研究テーマと問題意識についてのプレゼンテーション用パワーポイントを作成する。
	5	①授業テーマ： 危機管理学における研究対象の設定 ②授業概要 危機管理学において、研究計画における研究対象をどのように定めるか、研究対象としての問題群と具体的事例としてのトピックの扱い方について講義します。担当教員の実務経験に基づいた演習を実施します。(B1・C1・E1・G1・I1・K1・L1・M1) ③予習(120分) 自分自身の個人研究のための先行研究としての研究所や学術論文を図書館で収集する。 ④復習(120分)

	自分自身の卒業論文・卒業研究のための個人研究計画について考察し、研究対象についてのプレゼンテーション用パワーポイントを作成する。
6	①授業テーマ： 第2回発表①「研究対象の説明」 ②授業概要 自分自身の個人研究計画における「研究対象の説明」について、受講生がひとりずつパワーポイントをもとにプレゼンテーションし、受講生全員でディスカッションを行います。担当教員の実務経験に基づいた演習を実施します。（B1・C1・E1・G1・I1・K1・L1・M1） ③予習（120分） 自分自身の個人研究のための先行研究としての研究所や学術論文を図書館で収集する。 ④復習（120分） 自分自身の卒業論文・卒業研究のための個人研究計画について考察し、研究対象についてのプレゼンテーション用パワーポイントを作成する。
7	①授業テーマ： 第2回発表②「研究対象の説明」 ②授業概要 自分自身の個人研究計画における「研究対象の説明」について、受講生がひとりずつパワーポイントをもとにプレゼンテーションし、受講生全員でディスカッションを行います。担当教員の実務経験に基づいた演習を実施します。（B1・C1・E1・G1・I1・K1・L1・M1） ③予習（120分） 自分自身の個人研究のための先行研究としての研究所や学術論文を図書館で収集する。 ④復習（120分） 自分自身の卒業論文・卒業研究のための個人研究計画について考察し、研究対象についてのプレゼンテーション用パワーポイントを作成する。
8	①授業テーマ： 危機管理学における先行研究の収集方法と整理 ②授業概要 危機管理学において、研究計画における各自の研究テーマにそくした先行研究をどのように収集し、どのようにまとめるかについて講義します。担当教員の実務経験に基づいた演習を実施します。（B1・C1・E1・G1・I1・K1・L1・M1） ③予習（120分） 自分自身の個人研究のための先行研究としての研究所や学術論文を図書館で収集する。 ④復習（120分） 自分自身の卒業論文・卒業研究のための個人研究計画について考察し、先行研究についてのプレゼンテーション用パワーポイントを作成する。
9	①授業テーマ： 第3回発表①「先行研究の紹介」 ②授業概要 自分自身の個人研究計画における「先行研究の紹介」について、受講生がひとりずつパワーポイントをもとにプレゼンテーションし、受講生全員でディスカッションを行います。担当教員の実務経験に基づいた演習を実施します。（B1・C1・E1・G1・I1・K1・L1・M1） ③予習（120分） 自分自身の個人研究のための先行研究としての研究所や学術論文を図書館で収集する。 ④復習（120分） 自分自身の卒業論文・卒業研究のための個人研究計画について考察し、先行研究についてのプレゼンテーション用パワーポイントを作成する。
10	①授業テーマ： 第3回発表②「先行研究の紹介」 ②授業概要 自分自身の個人研究計画における「先行研究の紹介」について、受講生がひとりずつパワーポイントをもとにプレゼンテーションし、受講生全員でディスカッションを行います。担当教員の実務経験に基づいた演習を実施します。（B1・C1・E1・G1・I1・K1・L1・M1） ③予習（120分） 自分自身の個人研究のための先行研究としての研究所や学術論文を図書館で収集する。 ④復習（120分） 自分自身の卒業論文・卒業研究のための個人研究計画について考察し、先行研究についてのプレゼンテーション用パワーポイントを作成する。

11	①授業テーマ： 危機管理学における研究方法の設定と仮説の構築 ②授業概要 危機管理学において、研究計画における研究方法をどのように定めるか、実証研究を行うにあたってどのように仮説を構築すべきかについて講義します。担当教員の実務経験に基づいた演習を実施します。（B1・C1・E1・G1・I1・K1・L1・M1） ③予習（120分） 教科書の『リスクコミュニケーションとメディア』の第3章と4章を読み、研究方法と仮説の立て方について考える。 ④復習（120分） 自分自身の卒業論文・卒業研究のための個人研究計画について考察し、研究方法と仮説についてのプレゼンテーション用パワーポイントを作成する。
12	①授業テーマ： 第4回発表①「研究方法と仮説」 ②授業概要 自分自身の個人研究計画における「研究方法と仮説」について、受講生がひとりずつパワーポイントをもとにプレゼンテーションし、受講生全員でディスカッションを行います。担当教員の実務経験に基づいた演習を実施します。（B1・C1・E1・G1・I1・K1・L1・M1） ③予習（120分） 教科書の『リスクコミュニケーションとメディア』の第5章を読み、研究方法と仮説の立て方について考える。 ④復習（120分） 自分自身の卒業論文・卒業研究のための個人研究計画について考察し、研究方法と仮説についてのプレゼンテーション用パワーポイントを作成する。
13	①授業テーマ： 第4回発表②「研究方法と仮説」 ②授業概要 自分自身の個人研究計画における「研究方法と仮説」について、受講生がひとりずつパワーポイントをもとにプレゼンテーションし、受講生全員でディスカッションを行います。担当教員の実務経験に基づいた演習を実施します。（B1・C1・E1・G1・I1・K1・L1・M1） ③予習（120分） 教科書の『リスクコミュニケーションとメディア』の第6章を読み、研究方法と仮説の立て方について考える。 ④復習（120分） 自分自身の卒業論文・卒業研究のための個人研究計画について考察し、研究方法と仮説についてのプレゼンテーション用パワーポイントを作成する。
14	①授業テーマ： 実証研究における研究計画の構築 ②授業概要 これまでの4回の研究発表を踏まえて、卒業論文・卒業研究のための個人研究計画全体をまとめる作業をするための説明を行います。担当教員の実務経験に基づいた演習を実施します。（B1・C1・E1・G1・I1・K1・L1・M1） ③予習（120分） 教科書の『リスクコミュニケーションとメディア』の終章を読み、自分自身の研究計画の全体像について考える。 ④復習（120分） 期末試験レポートとしての個人研究計画パワーポイントを作成する。
15	①授業テーマ： 演習のまとめと総括 ②授業概要 危機管理学における研究のあり方について、とくに法学的・政治学的・社会的・心理学的なアプローチによる実証研究における研究計画と概要についてまとめ、総括します。担当教員の実務経験に基づいた演習を実施します。（B1・C1・E1・G1・I1・K1・L1・M1） ③予習（120分） 期末試験レポートとしての個人研究計画パワーポイントを作成する。 ④復習（120分） 期末試験レポートとしての個人研究計画パワーポイントを作成する。
関連科目	①演習系科目としては、「自主創造の基礎1（RMGT 1215）」・「自主創造の基礎2（RMGT 1216）」・「危機管理基礎演習Ⅱ（RMGT 2602）」・「ゼミナールⅠ（RMGT 4601）」・「ゼミナールⅡ（RMGT 4602）」・「ゼミナールⅢ（RMGT 4603）」・「ゼミナールⅣ（RMGT 4604）」・「危機管理特殊研究1（RMGT 4611）」・「危機管理特殊研究2（RMGT 4612）」・「危機管理特殊研究3（RMGT 4613）」・「危機管理特殊研究4（RMGT 4614）」と関連します。とくに、「ゼ

	ミナールⅠ～Ⅳ」への橋渡しの意味をもちます。②講義科目については、個別クラスで扱うテーマによります。
教科書	福田充編（2012）『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』（北樹出版）。 福田充（2010）『リスク・コミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』（北樹出版）。
参考書・参考URL	福田充（2022）『リスクコミュニケーション～多様化する危機を乗り越える』（平凡社新書）。 その他は講義中に適宜紹介します。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 火曜日・金曜日昼休み時間。それ以外の時間については、メール等で事前 にアポイントメントをとることにより研究室で対応します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント25%：パブリックセキュリティ25%：グローバルセキュリティ25%：情報 セキュリティ25% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学70%：法学30%

